大学構内一時避難場所

避難場所は、広く、火災による延焼のおそれがないところが適しています。
大学ではあらかじめ一時避難場所を定めていますが、地震時の状況等により、場合によっては安全な別の場所へ避難してください。

地震が発生したら

- 窓や棚等、ガラスが割れたり倒れやすいものから離れ、落下物に注意
- むやみに動かず安全を確保
- 非常口やドアを開けて避難口を確保
- 火気を使用している場合は、身の安全を確認後、火の始末
- エレベーターは使用せず階段で避難
  ※本学のエレベーターは、地震発生時に自動停止するシステムになっています。
- 正確な情報収集を行い、なるべく集団で行動
- 負傷者の救護や初期消火に協力
- 家族との安否確認および大学への安否報告

大学からの情報はホームページでお知らせします。

地震発生から避難まで→裏面

日頃の準備

大規模な地震の発生を防ぐことはできなくても適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どのような備えが必要か日頃から考えておくことが大切です。

- 大学および自宅周辺の一時避難場所と避難経路の確認
- 最寄りの非常階段の位置の確認
- 最寄りの消火器の設置場所の確認
- 自宅へ歩いて帰宅する場合の経路および所要時間の確認
  （災害時徒歩約2.5km/h）
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所等の確認
  （大学および通学・通勤途中）
- 自宅の棚、タンス等の転倒防止対策
- 緊急時情報メモの作成
- 非常用アイテムの確認・準備
- 大学への連絡方法の確認
- 家族との連絡方法の確認
- 災害伝言サービス利用方法の確認

大地震対応マニュアル

このマニュアルは大きな被害が想定される震度5強以上の地震が発生したときに身を守り、発生後の混乱を乗り越えるための対応をまとめた携帯用のマニュアルです。財布や手帳のポケットなどに入れて携帯してください。

石川県立大学
ISHIKAWA PREFECTURAL UNIVERSITY

家族などへの連絡方法

[NTT災害伝言ダイヤル]
災害発生時など被災地との電話連絡がとりにくいときでも被災地の方との連絡・安否確認ができる便利な声の伝言板サービスです。

❶伝言の登録（被災地）
～自分の安否情報を相手に伝えたい時～
①「171」をダイヤルする。
②ガイダンスに従い「1」をダイヤルする。
③自分の電話番号を市外局番からダイヤルする。
④メッセージを録音する。（30秒以内）

❷伝言再生
～相手の安否情報を確認したい時～
①「171」をダイヤルする。
②ガイダンスに従い「2」をダイヤルする。
③相手の電話番号を市外局番からダイヤルする。
④安否状況を確認する。

■登録できる電話番号
災害により電話がかかりにくい被災地域の電話番号

[携帯電話会社の災害伝言サービス]
大規模災害発生時に、携帯電話から安否状況を登録し、登録された安否情報をインターネット等を通じて確認できるサービスがあります。詳細は各携帯電話会社のホームページで確認ください。

非常用アイテム

◆非常用持ち出し品の例

- □現金
- □免許証
- □預金通帳
- □絆創膏・包帯
- □携帯電話・充電器
- □携帯ラジオ
- □予備電池
- □雨具
- □学生証
- □健康保険証
- □印鑑
- □常用薬・常備薬
- □懐中電灯
- □下着・上着・軍手等
- □タオル・ティッシュペーパー

◆非常備蓄品の例（3日分程度）

- □飲料水（1人1日3ℓを目安）
- □非常用食品
  乾パン・缶詰（缶切り）・レトルト食品・栄養補助食品・ドライフーズ・インスタント食品・菓子類 等
- □その他生活用品
  毛布・寝袋・洗面道具・ポリタンク・ろうそく・ライター・使い捨てカイロ・ガムテープ・トイレットペーパー 等

緊急時情報メモ

氏　名

所　属

学生番号

緊　急
連絡先

住　所

生年月日

血液型

持　病

常用薬

アレルギー

自宅近くの
避難場所

※油性ペンを使用してください

地震発生から避難まで

自分の身を守る!!

揺れがおさまった

今いる場所は安全か？
- YES → その場所を動かない
- NO → 一時避難場所へ避難

交通機関が動いていない

自宅に歩いて帰ることができるか？
- YES → 自宅へ → 大学へ安否報告
- NO → 避難所へ → 大学へ安否報告

落ち着いたら

大学へ安否報告 → 連絡先

大学にいるとき

◆大きな地震が発生したら

冷静に落ち着いて まず身の安全を守る。

- 窓や棚、ガラスなど割れたり、中のものが飛び出しそうなものから離れる。
- 机の下などにもぐるか、バッグ・衣類などで頭を覆って落下物から頭と手足を守る。
- 余裕があれば、ドア付近にいる人はドアを開け、出口を確保する。
- 実験中など火気を使用しているときは身の安全を確認した上で火を消す。また薬品などから離れる。
- 広場やグラウンドなど、落下物のない場所にいる場合は、その場で揺れがおさまるのを待つ。

◆揺れがおさまったら

- 余震の可能性もあるので、あわてずに様子をみる。
- 周囲のものが倒れたり、落下するおそれがない場合はその場で待機する。危険と判断した場合は安全な場所に移動する。
- 火災が発生している場合は、身の安全を確保し、まわりの協力を得て初期消火に努める。消火困難な場合は火から離れる。
- 負傷者がいる場合は、身の安全を確保し、まわりの協力を得て応急手当をし最寄りの事務室に連絡する。

◆避難する際のポイント

- 教職員や非常放送の指示に従って避難する。
- 避難の支障になる大きな荷物は置いていく。
- 火災が発生している場合は、煙を吸わないようタオルなどで口を覆う。
- エレベーターは使用せず階段で移動する。

◆大学構内の一時避難場所

避難場所は、広く、火災による延焼のおそれがないところが適しています。
大学ではあらかじめ一時避難場所を定めていますが、地震時の状況等により、場合によっては安全な別の場所へ避難してください。

一時避難場所は裏面の平面図を参照

◆帰宅するか、大学に残るか？

帰宅する場合

余震がおさまり落ち着いたら、帰宅するかどうか検討する。※教職員は大学の指示に従う。

- 帰宅する目安は、大学から自宅が20km以内であるかどうかです。ただし、地震の規模、時刻、天候、自身の体調や体力によって臨機応変に対応する。
- 帰宅時は、できる限り同じ方向の者と複数で行動する。
- 帰宅後は速やかに大学へ安否報告する。

大学または最寄りの避難所に残る場合

- 交通機関が停止する、帰宅が深夜になる等、帰宅が困難となった場合は、大学内または最寄りの避難所を利用する。
- 校舎内の移動、宿泊場所については教職員の指示に従う。

通学・通勤中

- 被害状況を正しく把握する。
- 周囲の状況に注意し、身の安全確保を最優先とする。
- 倒れるおそれのある塀、電柱および自動販売機などから離れ、また落下物に注意する。
- むやみに動かず安全を確保する。
- 避難中は警察や消防の指示に従う。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限にする。
- エレベーターは使用せず階段で避難する。
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動する。
- 負傷者の救護や初期消火に協力する。

津波からの回避

震度4以上の強い地震が発生した場合、または弱い地震であっても長い時間ゆっくりと揺れを感じたときは津波が発生するおそれがあります。
気象庁は、津波が起きるおそれがある場合、津波予報を発表します。津波予報には、津波の到達時間、地域、予想される津波の高さなどが示され、警戒度によって「津波注意報」・「津波警報」・「大津波警報」に区分されます。

◆警報発令から避難まで

- 「津波注意報」が発令された場合は、その内容やその後の情報に注意を払うとともに、避難経路・避難場所を確認してください。
- 「津波警報」発令後は、安全確保のために直ちに高い建物の上階に避難してください。

◆津波が襲来してきたら

- まず我が身の安全を優先しましょう。自分が怪我をしては避難出来ません。
- 浸水中は、漂流物により転倒する危険が大きいため、浸水が始まったら、遠くへの避難はあきらめ建物のできるだけ高い所に上がってください。

大学への連絡方法

大地震が発生した場合、大学は学生および教職員の安否確認を行います。
落ち着いたら下記のアドレス又は電話番号にメール又は電話で安否を報告してください。

学生

gakusei@ishikawa-pu.ac.jp
☎ 076-227-7408（教務学生課）
☎ 076-227-7220（総務課）

教職員

jimu@ishikawa-pu.ac.jp
☎ 076-227-7220（総務課）

大地震が発生した場合、本学ホームページで必要な情報の提供と安否提供の呼びかけを行いますので本学ホームページに注意してください。

MEMO